

V106a SKA プロジェクトへの参加計画 9

赤堀卓也, 小林秀行, 本間希樹, 町田真美 (国立天文台), 新沼浩太郎 (山口大学), 他国立天文台水沢 VLBI 観測所 SKA1 サブプロジェクト

Square Kilometre Array (SKA) 計画の国内外の全体の進捗を報告する。計画は、第1期 (SKA1) の建設が2021年7月から開始され、いよいよ2024年から Array Assemble が始まる (AA0.5)。契約は約60%が完了したが、世界的なインフレや半導体不足への対策なども継続している。主要契約が未了のMIDの工程がやや後ろ倒しとなり、ステーション素子アンテナの配置を調整中のLOWとも合わせて、建設後期の日程がタイトになりつつある。条約批准国は9ヶ国 (スペインが追加) に増えた。他、観測・保守の年間計画や、SKA Regional Centre (SRC) の組織体制の見直しが検討されている。アジアでは、定期的で開催している東アジアSKAワークショップが2023年10月末に韓国で行われた。パネル議論では特にSRCの協力について有意義な議論が行われた。

国立天文台では、2019年から3年間、水沢 VLBI 観測所下のSKA1検討グループとして、コミュニティと共に日本の参加案をとりまとめた。そして同所サブプロジェクトとして、さらに2年間、参加計画を特に予算面において深化させることになった。2023年秋季年会では、大型科研費への応募、日本学術会議の未来の学術振興構想2023への掲載、そして文部科学省ロードマップに2000年度に引き続き名古屋大学から提案したことを報告した。この間、来年度の台内予算要求への対応、そして人員要求を行ってきている。小林サブプロ長の退職に先立ち、山口大学の新沼浩太郎教授に技術部門長をお引き受け頂き、またカウンシルオブサーバは講演者が暫定的に引き継ぐ予定である。講演では、予算獲得と戦略、組織体制、今後の方針の最新情報を共有する。